



IRIS(アイリス)は、菖蒲・いちはつ・花菖蒲など、あやめ科の植物を表す言葉ですが、もうひとつ「虹色」という意味があります。ギリシャ神話では「虹の女神」のことをいいます。アイスクラブ通信「虹」は、私どもとみなさまを結ぶ架け橋として、楽しんでいただけるよう、また、お役にたてるようにと願ひ、会員のみなさまにだけお届けしております。

日本には昔から独特の色の呼び方がありました。vol.36のカラーは朱色(しゅいろ)です。赤の色料の中でも、太古から使われている朱は、東洋では寿(ほぎ)の色でした。



御手洗(みたらし)の作法…… 1. 柄杓を右手に持ち、柄杓に水汲む。2. まず、1/5程度の量の水を左手に掛けて洗い清める。3. 柄杓を左手に持ち替え、1/5程度の量の水を掛け右手を洗い清める。4. 柄杓を右手に持ち替え、左手に1/4の量の水を溜め、溜めた水で口を漱ぐ。6. 再度左手を洗い清める。7. 最後に、柄杓を傾けて、水を柄に掛かるように流し、柄杓を清める。

葬祭メモリー

「繋ぎ目の役割」

株式会社公益社 代表取締役 木川 英樹

記録的な猛暑が続いた夏がようやく終わり告げられたかと思えば、深まる秋を満喫する暇もなく早や年の瀬を迎えました。本年も公益社では、多くの方々をお送りさせていただきました。故人の歩まれた人生を偲び、心からご遺族の気持ちに寄り添うことができたのだろうか、いつもこの時期になるとそんな思いが頭をよぎります。

葬祭業界を取り巻く環境の変化は著しく、わずかの手間や後々の付き合いを疎んじ、葬儀を簡素・簡略化する傾向はまだまだ続くものとみられています。私は無駄なモノや過剰な演出を省略することに何ら異議を唱えるつもりはありません。そのことは昨年の小欄でも述べさせていただきました通りであり、私どもではむしろ、ご遺族の希望や事情に合わせた規模や規格の葬儀をご提案しております。ただ、葬送儀礼に永年携わってきた私自身の印象に残っている光景の多くは、親類縁者や遠方からの弔問客、旧知の友人らの思い出話に故人の在りし日の姿を重ね合わせ、故人が結んでくれた縁にご遺族が感謝されているお姿であるのもまた事実であり、私は葬儀の場に故人からご遺族へと受け継がれていく「来し方と行く末」の繋ぎ目を見る思いがいたします。

今年、全国で相次いで明らかになった高齢者の所在不明や孤

独死などは、様々な原因が複雑に絡み合っているとはいえ、プライバシーや個人情報という名のもとに、個人の自由や事情が最優先される時代の中で、孤立化する核家族やそれを許容する時代や社会の悲しい産物であり、地縁との関わりが希薄さによる地域コミュニティの崩壊や地域との関わりを遠ざけた結果の悲劇ではないでしょうか。直接的に結びつけることはできませんが、葬祭儀式という故人とご遺族、そしてそこに所縁のある人々が集う場に多く立ち会う者からみれば、こうした他者との関わりやコミュニケーションを排除する近年の風潮が起因とされる数々の問題と、婚姻や葬祭など儀式の簡素・簡略化とは全く無関係ではないように思っています。

最近では、直系以外は親族に非ずといった考えをお持ちの方も多く、ある日私どもにあった葬儀のご依頼は「身寄りのない人が亡くなったのだけれど……」との連絡を故人の弟さんから受けたといった事例もあるほどです。このように親族の定義すらも昔と様変わりする時代の今、お世話になった方々との縁や故人が培われた絆を大切にしない会葬辞退の葬儀も増えつつあり、地域のみならず家族コミュニティイまでもが崩壊している感さえ否めない現実を目の当たりにすると、葬祭業に携わる私どもの

役割は決して小さくないと思いを強くいたします。

社会的風潮や時代の流れを變えることはできなくとも、すべてのお客様が葬儀に係る一切のことで煩わしさやストレスをお感じにならぬことなく、心おきなく故人との最期を過ごすことのできる環境づくりに努めることもまた、高い次元での人と人、心と心の結びつきを社是として掲げる私ども公益社の使命と捉え、来年も受け継がれていくであろう「来し方と行く末」の繋ぎ目の担い手として、その役割を果たしていく所存でございます。

依然として先行き不透明なままの経済情勢や葬祭儀式への出費を極力抑えたいとお考えの方も多く、葬祭業界はさらに厳しい状況が続くものと思われ、しかしこのような世の中にあっても弊社では、時代とともに変化するライフスタイルや、多様化するお客様のニーズや価値観に対応するべく、真心を基本にした対応と新たなサービスの確立に取り組み、更にははセツトプラン内容の充実などにも努めてまいります。どうぞこれからの、公益社の新しい挑戦にもご注目ください。

新たな年の初めを、ご家族お揃いでお迎えになられますことを心からお祈り申し上げます。歳末のご挨拶とさせていただきます。

知っておきたい 儀礼文化

## 「心」の裡の「何か」について ①

葬儀とは、葬送儀礼の略と言われている。「葬」は草むらに遺体を遺棄することを意味する漢字です。

「儀礼」は、手順の整った行為の事で、葬送儀礼をまとめると「遺体を草むらに遺棄する為を送る手順の整った行為」という事になります。埋葬のことですね。

淡々とした行為のように感じますが、昔から人は葬儀、その時に『何か』を考え・感じ・そして何かを行ってきたと思うのです。悲しみ、怒り、恐怖、無力感、疑問などの無数の感情が交差し『何か』をせずにはいれない、その『何か』を行ってきたのです。

4 万年以上前の北イラクのシャニダール遺跡で発見されたネアンデルタール人骨の周囲から花の花粉が発見されました。死者に対して生者が花を手向けたのでしょうか。

私たち人間が葬儀を遙か昔から行ってきた、感情の表れの証明ではないのでしょうか。これが、葬儀の原点ではないのでしょうか……。

原人と現代人と比べたとしても、自分の仲間が死を迎えた時には悲しくて、『何か』をせずにはいられない感情は同じです。葬儀とは、この心の悲しさを表す行為なのではないのでしょうか。単なる手順の整った行為、遺体の処分などではないはず

それは現在でも同じで、人ひとりの人生の完結に無量の思いをさせ、その魂の安寧を願い、かつ残された自分らの現世ならびに後世の安寧を願う気持ちをこめて、祖先より受け継ぐ文化背景のもとで最大限の知恵を絞り、入念に体裁を整えてきた共通するものが在るのではない

でしょうか。

長い間、死や葬儀は社会的なタブーとして存在してきました。

死・葬儀の問題は「縁起が悪い」と遠ざけられ、嫌だ、汚い、怖い、という言葉や感情で、死に関する話題は避けられていました。戦後、葬儀は社会的な行事ではなく、個人的な営み、近親者だけの営みであるという考えが強くなって、「地味葬」という言葉が現れたように、質素な葬儀、近親者だけで営まれる密葬(家族葬)が好まれるなど、全体的に葬儀が小型化していく傾向が見られます。

近代社会の尺度からすると、何事も「各人各様」で「自由に決める権利がある」のかもしれませんが、とりわけ冠婚葬祭に関しては、どの民族にも一見不合理な因襲や非科学的な迷信、あるいは窮屈な習慣がたくさん

に残っている事も事実です。

「自分の葬式なのだから、自分の好きなようにさせてもらう」「自分には葬儀など一切必要ない」などという事は、残された家族を悩ませることになるかもしれません。人は自分一人だけで生きているのではなく、また、遺族はこれから様々な人とのつながりの中で生きています。たとえ自分の主義に反しても遺族の為にあって行う葬儀(最小の負担でのお別れの場)は、故人からの思いやりと家族の絆の証となる事が多いのも事実であると考えます。

人が生まれ、葬送に至るまでに、「何か」を育み、培ってきたはずで、私たちは「儀礼」という文化の中にあつて、ネアンデルタール人の花束の意味を今に伝えていきたいと思っています。



## 公益社の チャレンジ25

ECO-NEWS「チャレンジ25キャンペーン」はオフィスや家庭などにおいて実践できるCO2削減に向けた具体的な行動を「6つのチャレンジ」として提案しています。

Challenge3は「自然を利用したエネルギーを選択しよう」という取り組みです。

公益社では、環境への負荷を減らすため、再生が困難な廃プラスチック類、紙くず等の廃棄物を再利用するための新しいエネルギーシステムを利用しています。廃プラスチックや紙くずなどの廃棄物を高品質の固形燃料RPFに再資源化し、化石燃料の代替燃料としてボイラー用燃料と

なります。資源の有効利用と環境負荷の削減に貢献しています。



固形燃料RPF



EMS71576/ISO14001:2004  
環境マネジメントシステム  
ISO14001認証取得

11月15日・16日にISO9001(品質マネジメントシステム)の更新審査が実施されました。公益社では、葬祭サービスの提供に信頼と安心で応えるためISO9001の要求事項を満たした品質マネジメントシステムを構築し、継続的に改善していきます。「心と心がふれあう葬祭サービスの提供」を基本方針に、全ての従業員が周知徹底して品質に関する意識の向上を図ります。この品質方針を具体化するため全エリア、各支店において年度品質目標を設定し、その達成度を測定し定期的に見直しを行っています。社員一丸となって積極的に取り組んでいます。



FS90743/ISO9001:2008  
品質マネジメントシステム  
ISO9001認証取得

RE  
DISCOVER  
NIPPON

の〜んびり、近江戦国の旅 ③

文・写真 北原 元気

真田幸村の娘は彦根に嫁いでいた。 少林禅寺

彦根・鳥居本から河内へ抜ける林道を野田山へ向かう谷筋に「笹尾」という集落がある。この閑寂な集落に「少林禅寺」という寺があり『真田信繁(幸村)の娘の墓』が、今も歴代住職の墓と共に遺っている。

さて、幸村は諱である。江戸時代、家康を追い詰めた真田信繁の名は禁句とされ、幕府を憚った講師によって幸村と語られるようになったという。ここでは「幸村」と記す。

『彦根史話・上』(宮田常蔵著・昭和39年初版)に次のような記述がある。『大坂方の名将真田左衛門佐幸村には一子大助の外に一女があった。彦根藩士青木五郎兵衛の妻となって、大坂両陣の頃には彦根に在住していたが、父は大坂方の将として弟大助と共に大坂城に入り、夫は井伊家の家臣として、直孝に従って東軍の陣中に入った。』

戦国時代の終焉、父娘、姉弟が敵味方に分かれ、太平を大儀に、お家存亡をかけて戦ったのだ。

青木氏はもと、幸村の父である信州上田城主真田昌幸

の家臣である。武田滅亡後、井伊直政の新軍団に配属された武田の遺臣の一人が、彦根藩士青木氏の初代となった。

青木氏の菩提寺は彦根本町の江国寺であり、過去帳には、青木五郎兵衛は四代目となり「徳学院殿正因寿心大居士」。妻であった幸村の娘は「九品院殿智海妙恵大姉」、元和六年(一六二〇)四月十八日彦根で亡くなっている。

笹尾町の少林禅寺は江国寺末寺であり、青木氏の古い墓碑が守られているのだ。大坂冬の陣の前に彦根に嫁ぎ、大坂城落城の六年後に亡くなった女性の墓碑である。「九品院殿智海妙恵大姉」の文字は今もなぞることができる。

名将真田幸村の血脈の一筋がここに眠っている。どんな女性であったのか、何を思い彦根の空を見上げていたのか……。

笹尾の山が故郷の山なみを思い出せるほどに似ていることを願うばかりである。



滋賀県立大学地域づくり教育研究センター  
研究員 上田 洋平

人の親になってみて、わが子の二歳から三歳にかけての頃といえ、すべての生き物のうちで最も愛おしい者の、とりわけ愛くるしい時期だと思ふ。

「およそ子というものは三歳になるまでの間に、親に対して、一生分の恩返しを、あらかじめ済ませてしまふ」と諸先輩から聞かされていたが真実であった。

考えてみると、父母がそれぞれ一個ずつ提供する極微の細胞同士の出会いなど、ものはずみみたいなものだ。「あ」という刹那のタイミングの違いによっては、産まれてくる子の性別も、すがたかたちも違ってくる。親子の出会いの間には、極微の偶然が決定的に作用する。

そんなことを言い出したら、親同士、そのまた親同士の出会いも、また偶さかのものである。

ところがそのいわば偶然の子が、腕に抱いた途端親にとっては唯一無二の存在になる。

「われらのこの子は古今東西を通じて、いまここにこのようにあるこの子以外にありえない」。そうなる。五体満足かどうか、器量よしか否かなど関わり無く、そうなる。

こうしてわが子がかげがえのない存在だと思ふとき、その子のちょっとした仕草がたまらなく愛おしいと感じるとき、親は次のような思いに打たれる。

「自分自身のすべての過去の出来事は、まさにこの子に、この子のこの笑顔につながっている！」

ここで、過去の単なる偶然が、意味ある必然にひっくり返る。

「この子」を腕に抱くまでの、すべての偶発的な瞬間、無為に過ぎてしまったと悔やんでいたあの時間、消し去ってしまいたいと思つていた惨めなあの時期でさえ、自分の過去のすべての時間や出来事が、「この子」との出会いひとつによって、新たな意味を与えられ、みるみる息を吹き返す。黒が白に変わる。

自分の過去に新たな息吹きを、豊かな意味を与えてくれる他者との出会い。その最も劇的な例が、親子の間にあるらしい。

子や親との、友や師との、あるいは自然、あるいは神や仏との、偶然の結果の、ときに一瞬の他者との出会いによって、おのれの過去が祝福される。他者という存在のめぐみを浴びて、おのれの過去を生きなおす。

人生における出会いとは、そういうものかも知れない。「救い」とは、あるいはそういうものなのではないか。

「わたしの歩みはなんだったのか」と愕然とさせられるような惨めないまの出会いもあろう。

けれど、出会いのオセロの結末は、最後の一枚が置かれるまではわからない。だって、生まれてきたこと、世界との最初の出会いの一枚は、みな白なのだ。

だからあきらめないで生きられる。生きて誰かのめぐみになれるかもしれぬ。

Traditional style

お屠蘇とそで迎えるお正月

元旦にいただく「お屠蘇」。大晦日からお屠蘇を漬けこむ、そういう習慣も最近ではほとんど忘れられたようである。昔はお屠蘇を買い忘れ、大晦日の夜に薬局へ駆け込む人もいたという(お屠蘇は薬局で売っていたのだ)。

祈願する人々の集いだ。社寺はその営みのなかで、日本の伝統的儀礼や風習を今に伝える記憶装置なのかもしれない。

さて、お屠蘇とは何か……。無病息災厄除のため、山椒・防风・大黃など薬草を調合し、酒に浸して飲んだのが始まりで、邪気を屠り、魂を蘇らせるところから「屠蘇」と名付けられたといわれている。大晦日の夜、お屠蘇をつくり、元旦の朝から一年間の健康と息災を祝っていた。これが屠蘇酒である。今流に言えば、屠蘇酒というのは、ハーブ酒といったところだ。



多賀大社崇敬会会員に送られるお屠蘇

「新」ご葬儀ブランド家族葬のフィリア



フィリア(洋型祭壇)



「家族葬」についての検討会議



私たちの思いが詰まったパンフレット

私たちが日頃接しているお客様から、家族葬についてのご質問をいただく機会が増えました。

一人ひとりの価値観が違ふように人生の最後のかたちの考え方に対しても様々な意見があつて当然だと思います。

家族葬とは、ご家族だけで行う小規模なご葬儀のことと思われがちですが、私たちが考える家族葬は、「規模」ではなく、故人様とご家族、又故人様にゆかりのある方々を中心にゆっくりと過ごしていただくことを何よりも大切に考えたお別れの「かたち」であると考えています。

今回、公益社では社内プロジェクトを立ち上げ、今までの経験だけではなく、社会全体のライフスタイルが変化する中、お客様が求める「家族葬」のかたちについての検討会議を何度も実施し、「家族葬のフィリア」が誕生しました。

ご家族の想いにお応えできるよう、この度全エリアで準備が整いました。

故人様を敬い慈しむ気持ちとご家族の大切な想いが込められた温かいご葬儀を、心を込めてお手伝いさせていただきます。

アイリスクラス 提携店ご案内

会員のみなさまの暮らしに役立つお店を紹介するコーナーです。詳しくは各店にお問い合わせください。

ご来店にて

会員特典 1球単価を1円引



ゴルフプラザひこねは、ジュニアからシニアまで幅広い年齢層のお客様にご利用いただけるゴルフ練習場です。初心者の方も大歓迎。

ゴルフプラザひこね  
〒522-0055 彦根市野瀬町181-1  
tel.0749-23-0753

会員特典 お買上金額の5%割引  
但し本店(中央町)のみ有効



彦根銘菓「三十五万石」は、ふっくらと炊き上げた小豆つぶ餡と、極上近江米の求肥餅を重ねた最中です。全国各地のお客様よりご愛顧を賜っております。

菓心 おおすが  
〒522-0063 彦根市中央町4-39  
tel.0749-22-5722

会員特典 消費税サービス



創業享保2年、布屋を営んでいた当時の屋号「布市」の名で親しまれる出口酒店は、酒類の卸し小売販売の専門店として数多くの商品を取り揃えております。

出口酒店  
〒522-0083 彦根市河原三丁目4-37  
tel.0749-22-0050(代)

会員特典 3,000円以上お買上の方  
当店売価より5%割引  
但し一部商品除外



創業は明治時代。菓子の卸し・小売店アメキでは、4,500種類の菓子を卸値でご提供いたしております。

株式会社 アメキ  
〒527-0018 東近江市八日市清水3-2-35  
tel.0748-24-0288

<http://www.rakuten.co.jp/ameki/>

# 寿ぐ花々

一年間の感謝の気持ちを入れて

会員様限定  
特別価格

IRIS  
Flower Garden  
フラワーガーデンアイリス  
彦根市小泉町696番地8 tel.0749-26-8783  
fax.0749-26-4141

年末年始、営業時間のご案内

12月28日～12月30日 9:00～19:00  
12月31日 9:00～17:00  
年始は1月4日より営業いたします。

大特価  
先着30名様



50%  
OFF

会員様お1人1個限定

1 高さ約45cm  
¥6,800 → ¥3,400

30%  
OFF

2 高級感のある大きめのアレンジ  
高さ約75cm  
¥10,000 → ¥7,000

和花材をベースに  
洋花を加えた  
当店オリジナル定番商品

3

高さ約50cm  
¥3,600

30%  
OFF

¥2,520



4 玄関やリビングに  
洋風アレンジ

高さ約25cm  
¥3,200

30%  
OFF

¥2,240



5 プリザーブドフラワー M

いつまでも楽しめるお祝いの  
プリザーブドフラワー

高さ約20cm  
¥5,200 → ¥3,640

30%  
OFF

6 プリザーブドフラワー S

高さ約17cm  
¥3,600

30%  
OFF

¥2,520



7 喪中花

喪中のお家にも  
お飾りいただけるアレンジ

30%  
OFF

高さ約45cm  
¥3,800 → ¥2,660



お正月用「松竹梅仏花・松竹梅墓花・松竹梅榊」も取り揃えております。数に限りがありますので予約制とさせていただきます。配達には5,000円以上お買い上げの方とさせていただきます。

## ご愛読者プレゼント



アイリスクラブ会員のみなさまに日頃の感謝の気持ちを込めてプレゼント!

- 「お正月鉢植え」を10名様にプレゼントいたします。同封の応募ハガキのアンケートにお答えのうえ、必要事項を記入しご応募ください。
- 応募締切 平成22年12月20日(月)必着
- 当選された方にはプレゼントお渡し日・場所をご連絡させていただきますと共に、次号にて発表いたします。

虹 vol.35 プレゼントご当選者

「根菜づくりセット(大根・蕪・人参)+大麦づくり」

■彦根市/田中宏様・児玉せき子様・広瀬久三様・佐野富久子様・藤原悦子様 ■東近江市/榑村定信様・松岡愛子様 ■近江八幡市/小須田桂一郎様・江畑房枝様 ■愛荘町/西川与志治様

たくさんのご応募ありがとうございました。



写真はイメージです

寄せ植えは一鉢で数種類の植物を楽しめます。お正月らしい植物を使った寄せ植えは、ひとつあるだけでも華やかになります。

IRIS  
Flower Garden  
フラワーガーデンアイリス

## Information

アイリスクラブ通信「虹」をご愛読いただきありがとうございます。今後の取り組みについて「虹」のプロジェクトチームを立ち上げ編集会議を実施し、更により紙面作りを目指しています。みなさまとの架け橋となるよう結びつきを大切に考えながら、取り組んでまいります。みなさまからのご意見、ご要望をお寄せください。

### みなさまのおたよりから

- 彦根市(女性) 日本再発見、「常滑」楽しく読ませていただきました。次がどこなのか楽しみです。
- 有名な所でも、忘れていたことを思い出せるような視点を持ちながら、紹介できれば…。きっと、それが再発見なんだと思います。
- 愛知郡(男性) いろいろ体験できる催しをして頂きたい。
- 文化講座やバスツアーなどを企画してまいりますのでご期待ください。

●近江八幡市(女性) アンケートに答えても意見のお便りしても無しのつづて残念に思っています。

■たくさんのお便りの中、返事ができずに申し訳ございません。毎回、お寄せいただくすべてのご意見は参考にさせていただいております。

紹介できないほどたくさんのお便りをありがとうございます。ご意見ご要望にお応えできるようがんばりますのでこれからもよろしく願います。

ご希望の方にアイリスクラブ通信「虹」保存用ファイルを進呈いたします。同封のプレゼント応募ハガキのファイル希望欄にを入れお申し込みください。

公益社は、24時間365日いつでも対応いたします

株式会社 公益社 本社：〒522-0054 滋賀県彦根市西今町939番地  
TEL.0749(22)5000(代) FAX.0749(22)0042

ご葬儀のご相談・ご依頼・資料のご請求は

0120-61-4000